幕末に世界一周やってみた 6

構成　川合登志和
漫画　秋桜

万延元年閏三月十八日
(五月七日)
ローノーク号は
ニューヨークの手前の
サンディ・フックに錨を下ろす

算之尽し　霞ミ残せし　船の数

上陸前の荷物検査も
終わったし
あとは上陸を待つのみ
じゃな…

さすがニューヨークは
繁花の地だけあって
行きかう船も様々

…と意気揚々と一句詠んだもののニューヨークではなくワシントンに直接行けと指示があったようじゃの…

寒いので
綿入れを
着ている。

ローノーク号の乗組員は
ニューヨークの出身者が多いので
マクルーニー提督がなんとか
ニューヨークに上陸できないかと
電信で交渉しておるそうじゃよ

この電信というもの
針のようなものを束ねた導線を
七ー八間ごとに立てた電柱で引いて
ワシントンを中心に四方八方に
張り巡らされておる

急ぎの知らせなど
数時間で返信が
くるそうじゃ
すごいのお～

※1間=1.8m

四～五日ニューヨーク沖の
サンディ・フックで停泊していた
ローノーク号は錨をあげて
西へ進路を取った

New York
SandyHook
Washington
Hampton Roads

結局ワシントンから
上陸することになったので
ニューヨークから四十一里ほど
離れたハンプトンローズの港に
向かったんじゃ

翌日

船だ！
ワシントンへの
船が来たぞ！

おお！
来たか－！

ガーン

ザ ザザザ

フィラデルフィア号だ！

PHILADELPHIA

フィラデルフィア号
長さ二〇一フィート
幅二十九フィート
水底九フィート
重さ百四トン

※1フィート=約0.3m（長さや幅は素毛の記録による）

ザワ ザワ

ローノーク号の窓という窓には日本人の興味津々な顔船尾甲板からはその光景をスケッチする谷文一の姿もあった

余談ではあるが谷文一だけに限らず素毛や木村鉄太などあらゆるものをスケッチする日本人の姿はアメリカの新聞に風刺画として掲載された

わしの姿も描かれとったかもしれんのう…

Hurray! Hurray!

ありがとうローノーク号！

♪歓の光

ドーン ドーン

ローノーク号で歓迎委員らと使節団紹介レセプションの後一行はフィラデルフィア号へ乗船した

フィラデルフィア号は三階層の造りで従者以下の者の部屋は二階にあり個室がカーテンでしきられていた

一三八か所も押入れのように仕切ってあるのか…

……数えたのか…

一行はフィラデルフィア号で昼食をとった後モンロー砦のディミック司令官から砦の見学を勧められたので上陸することになった

おお～ッ!!

ドーン ドーン

日本人が上陸すると祝砲二十一発が打たれる

ここで一句！

大筒に陽炎の立つ雨間哉

モンロー砦は河岸より一町あたりに台場があり内側に幅七～八間の濠を造り郭が備えてあるんじゃ石垣の高さはおよそ二間幅一丈三尺ほどで壁に大砲の開口部がある中には車付きの弾丸箱などが置かれて…（長くなるので以下略）

東側に砦の外側にもう一つ大砲を置いた壁があり素毛は「大石をもって石垣をなし内に大砲数百挺を並べ…」と記述している

スケッチしたんじゃが描ききれんかったわ！

日本人はやはり城の防衛の見識からか濠や城壁や砲台を興味深く眺めていたと現地の新聞に書かれたんじゃよ

※1町=約109m　1間=約1.8m　1丈=10尺（1尺=0.3m）

その後フィラデルフィア号はワシントンへ向けポトマック川を遡る

鳥が舞い両河岸には青々とした草が生い茂り小麦の畑や牛の放牧…のどかじゃのう

まるで松島を巡っているようじゃ

松島をめぐる心地ぞ春の川

わざわざ川を下っていく船まで日本人見たさに近寄ってくる

ずいぶん人家も多くなってきたからここがワシントンなのかのう？

江戸を出航して九十七日目ー
ワシントンは右に見えてくるはずだ
あれが…
ワシントン華盛頓!!
ワアアアアアアアアアア
♫ヘイル コロンビア

昼頃ワシントン海軍工廠に上陸したんじゃが いや～…すごい人だかりでびっくりしたわ！

ワィ ワィ

一行は官舎で休憩した後にウィラードホテルに向かうことになった

馬車には正使の新見様と副使の村垣様が次に目付の小栗様と勘定方の森田様が従者以下の者は四人くらいが同乗した

ワシントン上陸なのでな 三使は黒紋付に野袴 わしら従者はたっつけ袴姿じゃ

パカ ポコ

太鼓や笛・喇叭の音楽を流しながら進むのか！ 号令によって綺麗に進むもんじゃな！

使節団一行を乗せた馬車の行列は少し進んでは止まり進んでは止まりを繰り返しながら歩をすすめていた おそらく日本人を群衆にみせてやるためだと思われる

ハリスウ！ (How are you?)

ハリスウ！ (How are you?)

Is that a pistol on your head?
「My name is Somo Kato.」と
Thank you!
なんで名札をありがたがるんじゃろう…？
ワイ
ワイ
ワイ
イウネイム？（Your name？）
な…なんと言うておるのじゃ？
「貴公の名は何と申しまするか」と聞いておるのじゃよ
おお！ポウハタン号でウッド牧師に英語を習ってただけあるなあ！
わはははは
Japan smokes? Give me some!
日本のタバコが欲しいそうじゃ
ゲフン
ゲフン
※素毛の記録による
旅館ウイルラルツホーラール（ウィラードホテル）に到着したのはなんと十一時！七層建ての大きな宿で五十間の壁面が四面にあって建物の高さは七丈！部屋数は七百もあるそうじゃ！こんな宿日本にはないぞ！
宿の外観もびっくりドッキリじゃが部屋の中も衝撃の連続じゃよ！待て！次号！
第7話へつづく
わら
わら
わら
えっ？次は日本の銭が欲しい？
わ～。。
あっこら！

次回予告

ウィラードホテルの驚きは外観だけではなかった！
窓にはすべてギヤマンがはめ込んであって部屋から街が見られるようになっておるんじゃ
お湯が出るぞ～！
厠も水が流れるぞ！
…なぜガラスでぴっちりの窓なのに寝床に蚊帳が吊ってあるんじゃ…？
なんでもメモする素毛も描ききれない驚きの連続！
…もうメモは諦めた

ポーハタン号・ローノーク号と長旅をアメリカ人と一緒に過ごして食べ物の違いで面白いことがあったんじゃよ！
ウマイ！
にぎ
にぎ
ポーハタン号に乗っているときにわしが握り飯を作っておったらアメリカ人が握り飯を「ライスボール」と名付けたんじゃおにぎりの英名「Riceball」はこの時にできた言葉なんじゃ
↑諸説あるかも
ローノーク号では日本人が食べていた梅干しを珍しがって種を欲しがったのでどうするのか尋ねたら陸に上がったら蒔くと言うので大笑いになったことも
ワシントンでも驚きの食べ物が出るかも…
わはははは